

平成27年度施設運営の全体概要

1 施設運営の基本方針

機構本部の平成27年度の方針をふまえ、「～安全と健康、そして復興！～」を合言葉にしながら次の3点を施設運営の基本方針に定めて運営を進めてきました。

- ① 特色ある教育事業の実施を通じて青少年教育のナショナルセンターとしての役割を果たしながら教育事業の充実に努める。
- ② 研修支援事業の一層の改善・充実に努力するとともに、利用者の安定的な確保に努める。
- ③ 地域との連携を深め、地域の拠点として「体験の風をおこそう」運動、「早寝早起き朝ごはん」運動の普及・推進に努める

2 教育事業について

教育事業は、当施設の看板事業であるタートルズ・キャンプを引き続き実施したほか、通学合宿の対象校を2校とし、同日程で実施するなどその充実に努めました。成果の把握とその普及の観点では、いくつかの事業で IKR 調査や児童用情動知能尺度（EQSC）等の手法を取り入れるとともに、通学合宿の報告書を作成し関係機関に配布予定、HPに掲載予定です。

教育事業の概要は、以下の通りです。

(1) 看板事業

タートルズ・キャンプ 《平成27年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

児童養護施設との密接な連携により、課題を抱える子供達の自立支援を目的とした事業「タートルズ・キャンプ」を「アドベンチャー」をテーマに実施しました。今年度も、3つの児童養護施設と1つの情緒障害短期治療施設の参加で、事業開始から6年目を迎えました。本事業名の由来のとおり「自分の殻から顔を出し、まわりを見る勇気をだしてほしい。様子を見て、少しずつ手足をだし、ゆっくり一歩ずつ自分のペースで歩みだすことができるように・・・」が確実に実感できる子供たちの成長を見ることができました。特にカヌー体験や、うどん打ちの活動では、施設の枠を越えた参加者同士の交流も見られました。

(2) モデル事業

通学合宿 テンちゃん一家の一週間 「早寝早起き朝ごはん」運動推進事業 《平成27年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

小学生を対象に当施設から学校に通いながら規則正しい生活リズムの育成とよりよい仲間づくりを目的として通学合宿（6泊7日）を実施しました。今年度は、滝沢市立滝沢第二小学校と滝沢市立滝沢東小学校の4～6年生の児童35名が参加しました。生活の基盤となる「衣・食・住」を児童自らの力で取り組み、レクリエーションや創作活

動を体験しました。また、参加者同士の交流を1週間の前半に企画したので、後半の活動がスムーズに行われました。自分でやるべきことはしっかり行い、学生ボランティアと楽しい時間を共有しました。

(4) 東日本大震災復興支援事業

さんりく体験！探検ツアー 《平成27年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

東日本大震災から5年が経過しました。「震災を風化させない」「忘れない」ために、三陸鉄道の「震災学習列車」の乗車や「民泊」等の活動をとおして、被災地復興の現状を理解し、復興支援の一役を担う意識を高めることを、目的とした事業です。1日目は「助け合う心を学ぶ」というテーマのもと、岩手山青少年交流の家で「防災キャンプ」を行い、2日目は「三陸の暮らしを知る」というテーマのもと、震災学習列車乗車・民泊を行いました。最終日は「三陸の自然を感じる」というテーマで、サッパ船の乗船体験と机浜番屋群の見学を行いました。参加者からは、震災に関する学びを積極的に取り組みたいという気持ちが伺えました。

(5) 国際交流事業

① 日独学生青年リーダー交流事業（文部科学省委託事業）

ドイツ団の17名は、ドイツ国内でボランティア活動を行う等、様々な社会貢献をしている大学生を中心とした高校生から社会人の方々でした。

岩手山プログラムでは、法人ボランティアと一緒に、意見交換や野外炊事の実践を行いました。また、3つのグループに分かれて子供たちと交流する授業内容を企画し、滝沢市立柳沢小学校へ訪問して、その授業を行いました。ボランティア同士の交流や子供たちとの交流をとおして、「子供の体験活動の機会を提供するための支援」について理解を深めました。小学校訪問やホームステイ等の体験をとおして、日本の文化についても理解を深めることができました。

② Kids Together えいごde キャンプ in テンパーク

被災地域の子どもたちを対象に「Kids Together えいごde キャンプ in テンパーク」をHSBCグループとNPO 法人日本国際ワークキャンプセンター（NICE）との連携事業として実施しました。この事業は、平成20年度に始まった事業で、HSBCグループが資金とボランティアを提供し、NICEがキャンプの企画・運営を担当し、当施設が活動場所と指導者を提供するという三者による連携協力事業です。今年度は、「ハロウィーン」と「クリスマス」をテーマとして10月と12月に、岩手山青少年交流の家を会場に行われました。日・英2言語で運営され、参加した子供たちはHSBCグループとNICEの外国人スタッフ・外国人ボランティアと交流することにより英語・外国文化に触れ有意義な時間を過ごしました。

(6) 指導者養成事業

① 集団の力を活かすアドベンチャープログラム体験会

《平成 27 年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

プロジェクトアドベンチャーの手法を活かした体験では、一人一人が考え、意見を出し合い、楽しみながら課題解決を行いました。参加者は、公民館や教育施設の職員だったため、講座の企画や運営を行う上で大変参考になったという感想が多く聞かれました。

② How To ボランティア, 体験活動支援セミナー

《平成 27 年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

青少年教育施設でのボランティア活動の基本を学ぶ「How To ボランティア」と、実際に「テンパークちゃれんじくらぶ」に参加した子供達のグループリーダーとしてボランティア活動の実践を学ぶ「体験活動支援セミナー」を開催し、それぞれ多くの高校生・大学生が参加しました。

③ 岩手県内青少年集団宿泊教育施設職員合同研究会（宿泊連）

岩手県内の 5 つの公立青少年教育施設と連携し、岩手県立県南青少年の家で開催しました。事例発表で教育事業の成果などを発表し、その普及に努めるとともに、職員同士のネットワーク構築を図りました。

④ 教員免許状更新講習

岩手大学と連携し、「安全面に配慮した自然体験活動の実際」と「体験活動プログラムによる人間関係づくり」の 2 講習（各 6 時間）を行いました。講義と演習を行うことで、理論と実践と結びつけて講習を行うことができ、参加者の満足度は 100%でした。

⑤ ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト（8 回）

岩手山ボランティア育成ビジョンに基づき、今年度新規に実施した事業です。今まで学んだボランティアとしての知識や技術の研鑽の機会として、ボランティア自身のアイデアで「無人島キャンプ」「岩手山登山」等 4 つの事業の企画運営を行いました。法人ボランティアのスキルも大きくステップアップしました。

(7) 普及啓発事業

テンパークまつり 2015 《平成 27 年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

当施設が提供する活動プログラムを体験し、施設自体を広く地域の方々に知っていただくことを目的として「テンパークまつり 2015」を開催しました。今年度も 1 泊 2 日（土・日）の親子宿泊体験と日曜日のみのテンパークまつりの 2 部構成で実施しました。今年度はカブトムシゆかりさんが来所し「カブトムシゆかりの昆虫教室」を開催、また「テンパーク 10 種競技大会」も新たに加え、延べ 4 千人を超える家族連れが来場しました。ステージ発表、スタンプラリー、創作活動など室内外のプログラムを楽しみました。

(8) その他の事業

子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業

スキー体験 in テンパーク ～スキー すき 好き シーハイル!～

《平成 27 年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

小学校3年生から6年生を対象に、スキーに親しむことと参加者間の交流を図ることを目的に、1月6日～7日と1月23日～24日の1泊2日を2回開催しました。最初にアイスブレイクを行い、岩手高原スノーパークに会場を移して、技能別に分かれてスキー体験を楽しみました。夜は講師を招き「スキーの話」を聞きました。2日目にもスキー体験を行いました。初日に比べるとどの子も上達していました。

3 研修支援について

研修支援については、利用者の立場に立った業務運営の改善に努め、利用者の研修をサポートするという意識を持って、笑顔での利用者対応を心掛けてきました。

また、利用者数の年間目標を定めるとともに、日常的に施設内の活動場所の安全点検を行い、安心・安全で清潔な活動環境を確保することに努めました。

(1) 研修指導・支援

利用団体の研修目的の実現のために、利用団体の立場になって研修支援を実施しました。具体的には、当施設職員によるきめこまやかな事前相談を行うとともに、事前相談に来られない団体にも、電話連絡を密にし、利用前の不安をなくせるように努めました。

また、野外炊事、アドベンチャープログラム、七宝焼、スキー研修などにおいて直接指導を実施しました。研修の質を高めるため職員研修を行い、より多くの職員が対応できるようにしました。

(2) 施設の利用状況及び利用者の評価

平成 27 年度の年間目標として、総利用者数 113,000 人以上、宿泊室稼働率 53.0%以上を目標としていましたが、実際の利用状況は、総利用者数 117,464 人、宿泊室稼働率 54.1%となり、利用者数、宿泊室稼働率ともに目標を達成いたしました。今後とも広報活動や成果普及活動を行い利用者の確保に努めたいと考えています。

利用団体からのアンケート「当施設を利用しての総合的な満足度」をみると、「満足している」と回答しているものが 90.3%、「やや満足している」と回答しているものが 9.5%、両者を合わせると 99.8%が「満足」と回答し、これまで以上に高い評価を得ることができました。利用団体からの意見・要望等については、事務連絡協議会でその内容を確認し、対応できるものはすぐに改善するように心がけています。

(3) 利用者の安全で快適な生活環境の確保、危機管理

利用者が安全・安心で清潔な生活環境のもとで、快適な研修活動が実施できるように、

施設設備の整備・点検を定期的に行うとともに、想定される様々な災害・事故等が発生した場合の具体的な危機管理マニュアルを策定しています。

昨年度のそりすべりの活動時に大きな事故が発生してしまったことをうけ、そりすべりの安全マニュアルを作成し、団体への配布と職員が現地に赴いて滑り方を指導することになりました。

クマ対策としては、利用者が野外活動を行う前にコースを職員が爆竹を鳴らしてから活動に入っていただくとともに、クマを目撃した場合についての資料を作成し、団体に配布しています。クマ出没情報には屋外で活動する団体には速やかに伝え、屋内への退避等の対応を取っています。スズメバチ対策については、トラップを自作し敷地内各所に設置するとともに、巣を発見し次第駆除しています。

マイマイガの大量発生については、早期の段階で敷地内全域に薬剤を散布したこと、大量発生から3年目となり、マイマイガが自然消滅したことなどから、秋に大量発生することではなく、終息を迎えました。マイマイガの発生により利用を取りやめていた団体への周知など行っていく予定です。

4 地域との連携、社会貢献について

施設の運営に当たっては、様々な団体・個人と連携し、協力をいただいています。また、社会教育実習生やインターンシップの受け入れを行っています。

(1) 教育事業における連携・協力

教育事業は、その目的・内容によって地域の団体との連携が不可欠です。教育事業における主な連携先は以下の通りです。

○タートルズキャンプ・児童養護施設、みちのくみどり学園、青雲荘、和光学園
・情緒障害児短期治療施設、ことりさわ学園

○教員免許状更新講習・岩手大学・教員免許状更新講習連絡協議会

○テンパークまつり・児童養護施設・岩手県教育委員会・地元団体・企業など

○通学合宿・滝沢市立滝沢第二小学校・滝沢市立滝沢東小学校
滝沢市教育委員会

○Kids Together えいご de キャンプ・NICE, HSBC, 陸前高田市教育委員会等

○いわてしぜんとあそぼキャンプ・アウトドアチャレンジ岩手県実行委員会

(2) 岩手大学との連携・協力

自然の中での活動を通じた社会貢献及び教育・研究の発展に寄与することを目的に、岩手大学と連携・協力に関する協定を締結しました。岩手大学地域連携推進機構と主催した事業「頭と体と心の3（未）体験フェスティバル」は、来場者が1,200名を越える大盛況でした。

(3) 岩手県内の青少年教育施設との連携・協力

例年、岩手県内の青少年教育施設（県立県北・県南・陸中海岸青少年の家、盛岡市立区界高原少年自然の家）と合同で集団宿泊教育施設連絡協議会（宿泊連）を開催し、研究協議や情報交換を行っています。今年度は、岩手県立県南青少年の家で開催され、えさし郷土文化館 館長 相原 康二氏の講演が行われた後、管理・指導・食堂部門の分科会協議が行われました。

(4) ボランティアとの連携・協力

子供を対象とした教育事業の際に大学生や高校生などにグループリーダーとして運営の補助をしてもらうとともに、広大な施設の環境整備は職員だけでは限界があるため、地域住民からなるボランティアの協力により、草刈り・花壇整備などの環境整備を行いました。

① 施設ボランティア（法人ボランティア）

大学生や高校生などによるボランティアを育成し、希望者には法人ボランティアとして登録してもらい、様々な教育事業に協力をいただいています。今年度は、118名のボランティア（新規53名、継続55名）が登録しました。平成27年度に法人ボランティアが活動した延べ日数は、449日、延べ人数は、1,012名と、昨年度の約2倍となりました。

② 環境ボランティアによる環境整備

今年度も地域住民を主体とする環境ボランティアによる環境整備活動を実施いたしました。4月から11月までの期間、施設内外の草刈りやキャンプ場などの整備を職員と共に行いました。ボランティアの皆さんの献身的な働きにより、当施設の環境が保たれています。（登録者22名、年間7日、参加者延べ105名）

③ 岩手県立盛岡峰南高等支援学校生徒による花壇整備

岩手県立盛岡峰南高等支援学校生徒の皆さんによる花壇の整備をしていただきました。生徒と教職員は、5月から10月までの間、概ね月1回程度来所し、施設内にある花壇2か所（利用玄関前、第2駐車場前）にパンジーやサルビアなどの植栽をはじめ、除草、追肥等の作業を行いました。整備の行き届いた、きれいな花に迎えられて、利用者からも大変喜ばれています。（年間7回、参加者延べ約100人）

(5) 社会教育実習生・インターンシップの受け入れ

今年度も28名（盛岡大学27名、東北福祉大学1名）の社会教育実習生の受け入れを行いました。また、インターンシップ4名（盛岡大学1名、岩手県立大学1名、岩手県立盛岡短期大学2名）の受け入れを行いました。

5 職員の資質向上について

事業における企画力・指導力・安全指導，利用者との接遇サービス・コミュニケーション能力，職務遂行上の専門能力，危機管理，子どもゆめ基金，「体験の風をおこそう」運動，サービス規律等の職員の資質向上を目指し，職員研修を行いました。施設内研修として24件（参加者延べ305名）の研修を実施したほか，外部の研修には13件（参加者延べ18名）の研修を受講しました。

また、平成27年度は平成26年9月に発生した御嶽山での火山災害を踏まえ、「火山としての岩手山を知る」と題した防災に係る研修を市民に公開して実施しました。

今後も積極的に実施・受講し，職員の資質向上を図り，全職員が利用者に対し，安全・安全，親切・丁寧で迅速な対応を心がけたいと考えております。